

DraftingCAD

Windows版

バージョン5.5追加マニュアル



このマニュアルはバージョン5.5に追加された新しい機能などについての説明が記載されています。

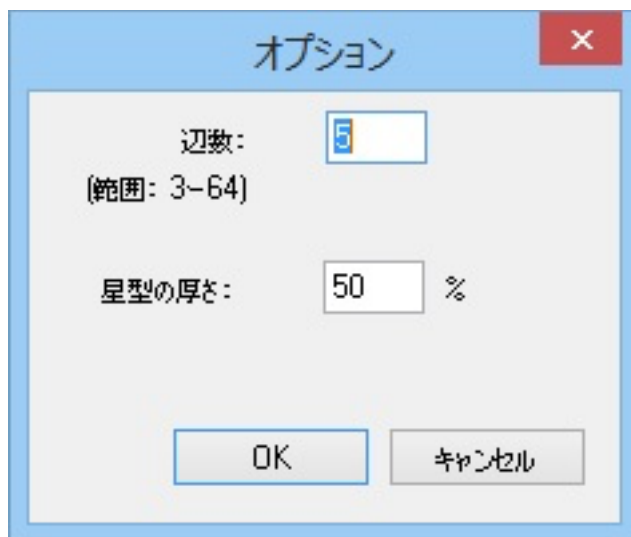
星型ツール

ツールバーの右下にあった「90°回転ツール」がなくなって、変わりに新しい「星型ツール」が入りました。（「90°回転ツール」の変わりにツールバーの右上にある「回転ツール」、または「アレンジ」メニューの「回転オプション」をご利用できます。）



星型の描き方は2通りあります：星の中心からの描き方と星の角からの描き方（アイコンの上でマウスボタンを押し続けると後者の描き方ができます。）

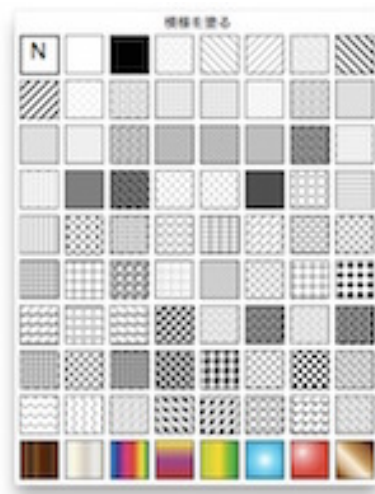
「Alt」キーを押しながら「星型ツール」のアイコンをクリックするとオプションダイアログが表示されます。



「辺数」と「星型の厚さ」を変えることで星型の形の調整ができます。

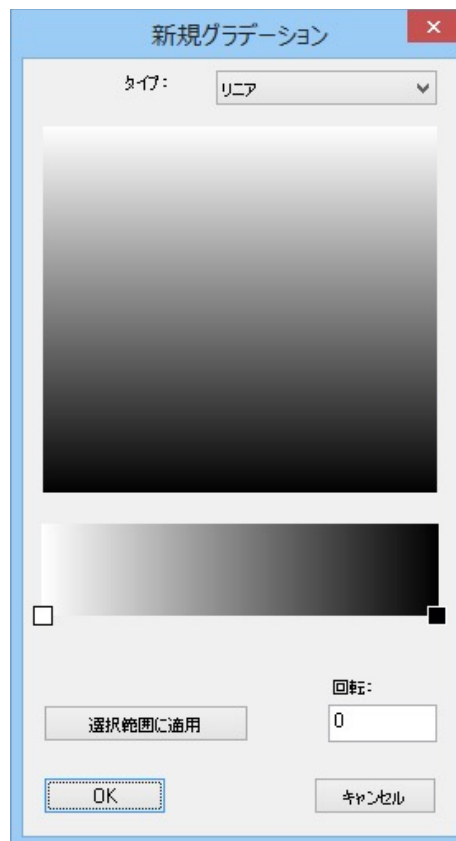
グラデーション機能

図形と線にグラデーションをつけられます。グラデーションは模様と同じように「属性」パレットの各「模様」パレットから選べます。

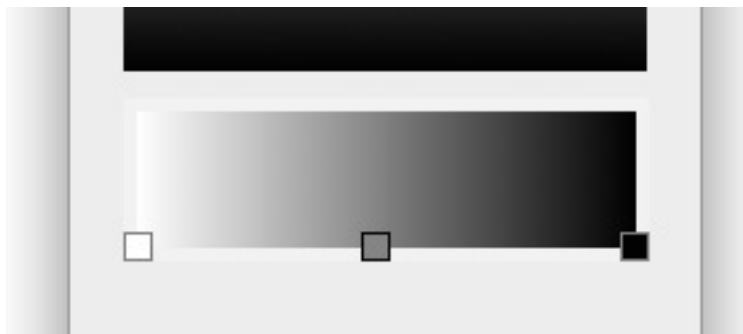


新しいグラデーションの作成

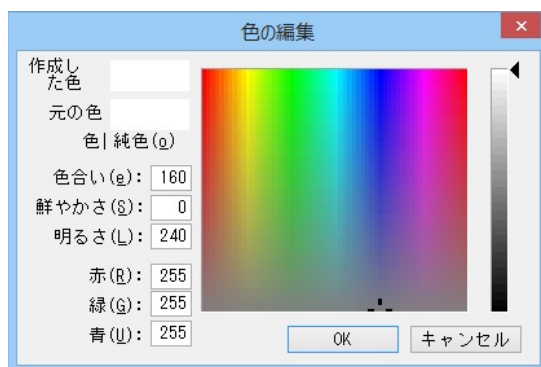
「環境設定」メニューの「新規グラデーション」を選ぶと「新規のグラデーション」ダイアログが表示されます。



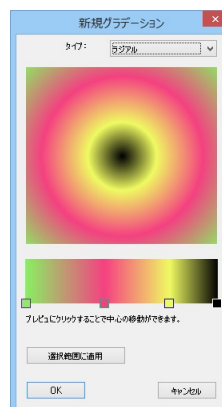
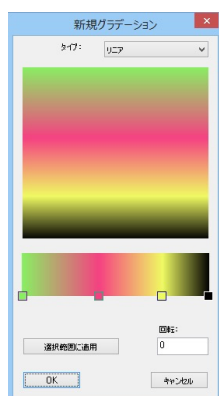
小さい□と■は、グラデーションの範囲を指定する「カラーボックス」です。「カラーボックス」をドラッグすると位置が変わります。また、マウスをクリックすることで「カラーボックス」を増やすことができます。



「カラーボックス」をクリックすると「カラーピッカー」が表示され、色を設定できます。



「タイプ」メニューを使ってグラデーションを「リニア」または「ラジアル」に設定できます。

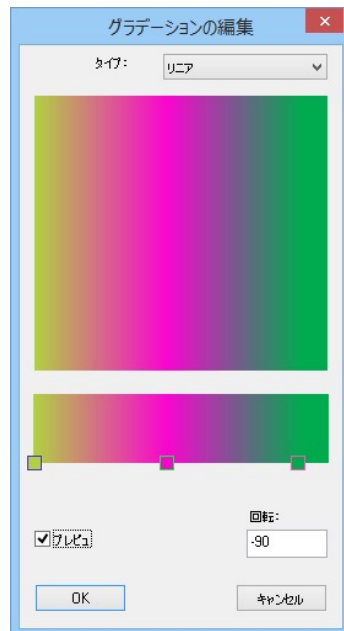


「リニア」グラデーションの場合は「回転」を設定することでグラデーションの角度を変えられます。

「設定範囲に適用」ボタン：これをクリックすると、新しく作成されたグラデーションが選択されているオブジェクトにかけられます。

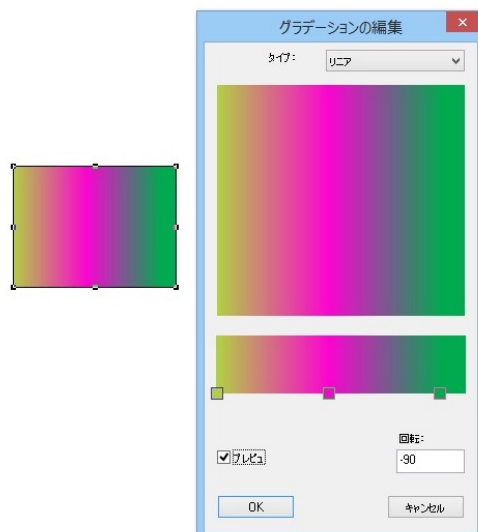
グラデーションの編集

「環境設定」メニューの「模様/グラデーションの編集」を選んで、編集したいグラデーションをクリックすると「グラデーションの編集」ダイアログが表示されます。



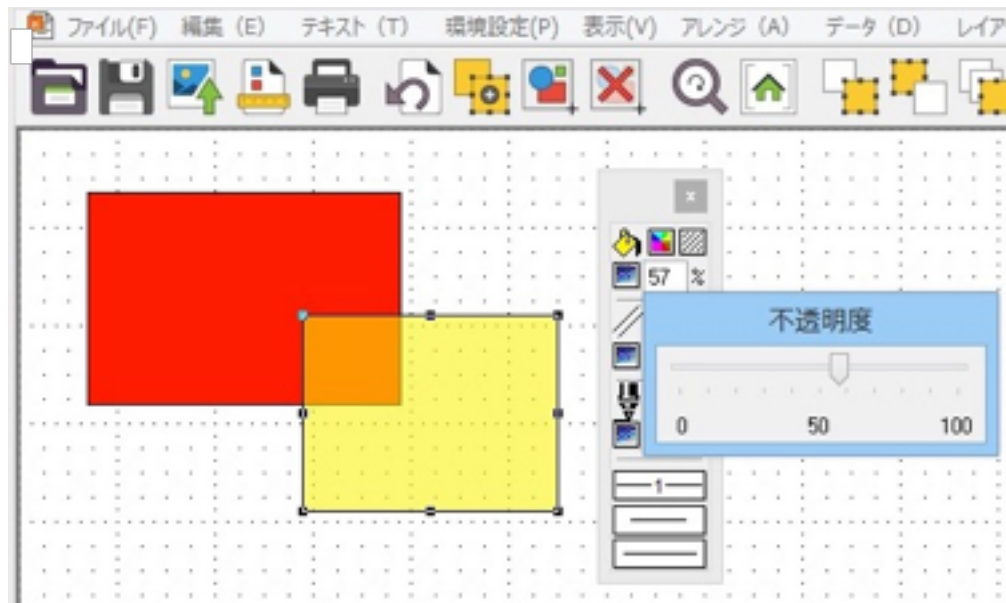
グラデーションの編集の仕方は上記の「新しいグラデーションの作成」と同じです。グラデーションを編集すると、そのグラデーションがすでにかけているオブジェクトに編集内容が反映されます。

「プレビュー」：これをチェックすると編集内容でグラデーションがすでにかけているオブジェクトにリアルタイムで反映されます。



不透明度の調整

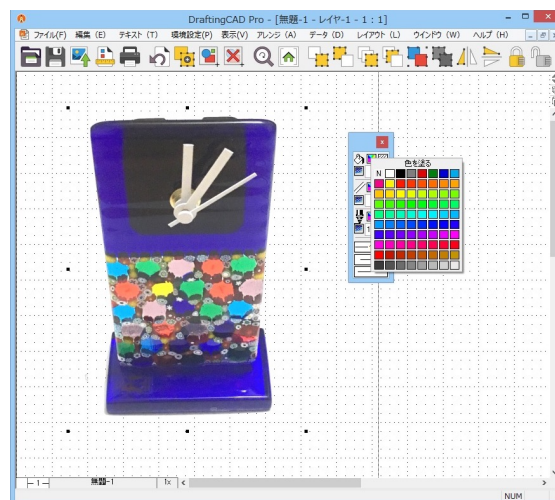
図形、平行線と線の色と模様の不透明度を調整できます。属性パレットにあるそれぞれの「不透明度設定ボタン」をクリックして表示されるスライダーを使って調整できます。



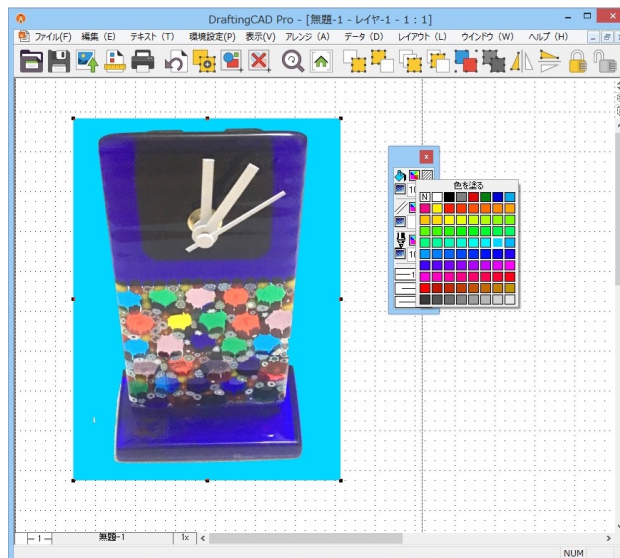
イメージファイルの読み込み

「ファイル」メニューの「インポートピクチャー」を使って写真などのイメージファイルを読み込みます。読み込めるファイル形式はJPEG、PNG、TIFF、TIF、GIF、PSD（PhotoShop）、BMP（ビットマップ）とTGA。

透明な部分があるファイル（PNG、TIFFなど）を読み込む場合、透明な部分は自動的に白く塗りつぶされます。イメージを選択して「色を塗る」パレットから「N」を選択すると透明になります。



他の色を選択するとその色になります。

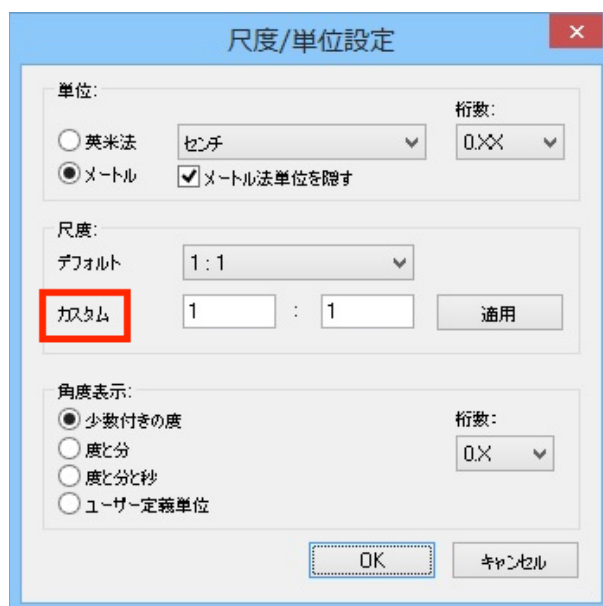


また、「模様を塗る」パレットの模様を選ぶとその模様になります。

イメージのハンドルをマウスで動かすことでサイズを調整できます。Shiftキーを押しながらサイズ調整を行うと縦横比が固定されます。

カスタム尺度の設定

「レイアウト」メニューから選ぶ「尺度／単位設定」ダイアログに「カスタム」尺度設定が追加されました。



設定したい尺度をテキストボックスに入力して、「適用」ボタンをクリックします。

ツールバー



バージョン5.5からウィンドウの上にツールバーが表示されます。ツールバーによく使う機能のアイコンが並んでいます。アイコンをクリックするだけでその機能が実行されますのでとても便利です。マウスをアイコンの上に置くとそのアイコンの機能が表示されます。

「表示」メニューの「ツールバー表示」、「ツールバーを隠す」を選ぶことでツールバーの表示／未表示を設定できます。

ファイル形式について

バージョン5.5から標準ファイル形式は「p55」になっています。以前のバージョンで保存された「mdd」ファイルを開くことができます。

「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を使うことでmdd形式で保存できます。mdd形式で保存する場合、グラデーション情報、不透明度情報とカスタム尺度情報が保存されません。

動作環境

OS : Windows Vista日本語版/Windows 7日本/ Windows 8/ Windows 10日本語版

CPU : Pentium 以上

メモリ : 500MB 以上

※JPEG などのファイルの「書き出し」には、QuickTime 5 以上が必要です。Apple社のサイト (<http://www.apple.co.jp/quicktime/download/>) からダウンロードできます。

QuickTimeはWindows 8とWindows 10にインストールできません。「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」を使ってWindows Bitmap形式で保存できます。保存されたファイルをペイントで開いてJPEGなどの他の形式で保存できます。

QuickTimeがインストールされていない場合はファイルメニューから「ファイル書き出し...」を選ばません。

※QuickTime をインストールする際は「基本的なインストール」を選択してください。「最小限のインストール」では、書き出しに必要なファイルがインストールされません。